資料３

第５次蟹江町総合計画策定

町民ワークショップ・かにえミライ会議結果報告書

町民ワークショップ「10 年後の蟹江町を考えよう！」

日　時　：　令和２年２月 22 日(土)　　10：00～12：00（蟹江・新蟹江・舟入小学校区）
　　14：00～16：00（須西・学戸小学校区）

場　所　：　蟹江中央公民館　研修室

プログラム　：

１．開会・あいさつ

２．本日のねらいと進め方について

３．ペア編成＆他己紹介

４．グループワーク１～わが小学校区の良いところ、改善したいところを出し合おう！

お住まいの地域・小学校区の良いところ、改善したいところをみんなで出し合いました。

５．グループワーク２～10 年後の課題は？その解決策のアイデアを出し合おう！

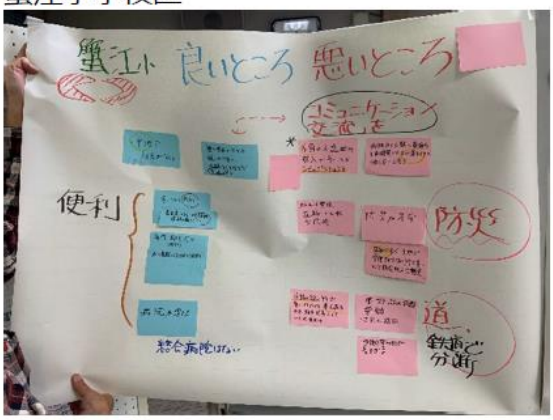
グループワーク１で出し合った良いところ、改善したいところは、10 年後も地域の課題としてあるのかを話し合いました。

地域の課題を解決するためにどんなことをすればよいのか、取組のアイデアを出し合いました。

６．発表～グループで話し合った成果を発表しよう！

７．閉会

蟹江小学校区



新蟹江小学校区

舟入小学校区

須西小学校区

学戸小学校区

【町民ワークショップ　「10 年後の蟹江町を考えよう！」】

◆わが小学校区の良いところ、改善したいところを出し合おう！

＆10 年後の課題は？その解決策のアイデアを出し合おう！

蟹江小学校区

	良いところ	改善したいところ	取組アイデア
安全	・平地で段差がない。高齢者にやさしい		
便利	・買い物が便利 ・名古屋に行くのに便利。近鉄に近い ・海門、駅（近鉄）に近い ・病院が増えた（総合病院はない）		
コミュニケーション・交流を	・蟹小学校区の方々は親しみやすい。盆踊り大会などで交流できる	・外国の人たちの転入が多いからコミュニケーションが課題 ・近鉄蟹江駅の南側を再開発して人が集まるようにしたら良いと思う	
防災		・蟹江小学校、道路冠水。台風時 ・防災が不安 ・空き家が多く、土地が管理されていないところも多いので、防災、防火上懸念	
道・鉄道で分断		・道路の狭いところが多いけれども、車も通るので都市計画していく必要がある ・東郊線の問題、ＪＲの踏切 ・近鉄の踏切が長すぎる	

1.外国人の方の増加 地域でどう共生	・ニューシティ ・班長さん参加 ・防災フェスティバル →炊き出し！食べれるよ。子どもも	・災害が来た時のことを考えよう ・良い取組を広げる ・顔見知りになる
2.避難をどうする 今の課題 高齢者の方 訓練 本人の意識 昼間は高齢者のみ	・一緒に訓練しませんか？意識が低い地域、賃貸住宅→仲間に ・町からの災害時の伝達は？ →町内会長→班？	・平日の避難訓練 ・源才、藤丸など、町民意識が低い ・どういう災害の時、どこに逃げるべきか？正解はない！
	・“海部”の自覚を！みんな一人ひとりが	・みんなに救命（胴衣）グッズを ・地名から注意を ・防災教育を工夫 ・木造の密集地区をどうする ・富吉、防災意識高 ・蟹江小、防災運動会 ・台風、水＋地震に対する意識も ・情報伝達→アマチュア無線など ・防災の無線→聞き取りにくいが

新蟹江小学校区

	良いところ	改善したいところ	取組アイデア
自然	・まだ自然が豊か ・自然が豊か（静か） ・緑が多い。田畑（空気がきれい） ・川が多いから洪水時、助かる		
環境		・ヌートリア、たぬき、あらいぐま、カメ ・ハト、カラス、ねこ、ムクドリ ・水路が汚れている。ゴミがある	・日光川河川敷のゴミ。プラごみも多いので、行政と民間（ボランティア）が協力して片づける ・やっているよ！530（ゴミなし）活動。道徳の問題か？ ・流れる水路（高低差のない土地でつくるのに高額で…）公園 ・地下水を使って流れる川を ・水郷かにえ きれいな水が流れる
災害	・防災運動会	・高い建物、避難所がない ・地盤沈下（低い土地）	・防災運動会の継続 ・子どもたちの危機感を ・排水機整備が進んでる
交通	・富吉付近は便利 ・交通の便が良い	・交通の便 ・おさんぽバスの停留所が少ない（交通の便が悪い） ・交通不便（車なしでは…）	・津島、愛西、あまとの ・交通の便の要望
買い物		・買い物が不便 ・商店の減 ・コンビニが近くにない ・店が少ない（コンビニ、喫茶店など）	・買い物、ゴミ出し、病院（通院・薬）。健康な人が手伝う、助け合いのシステムに補助金を！ ・コミュニティカー（自動運転）。買い物、病院、役場 ・安い店を…で不便となったが… ・富吉 ・ネットの導入し易さ ・移動支援システム。トヨタ車両提供 ・買い物支援サービス（スーパーのサービス）。送迎サービス、Aコープ豊明
住宅	・空き家がない ・戸建てが増えてきた	・マンション空室	・一部地域の市街地
文化・スポーツ	・図書館がある ・運動できるところ多い		・希望の丘 ・子どもが遊べる場
コミュニティ	・日本人以外の人が住んでいる。国際化進んでいる	・人口減（子ども減） ・コミュニティが取りにくい ・高齢化	
医療	・開業医が多い	・病院が一号線沿いに片寄っている ・病院が少ない	

舟入小学校区

	良いところ	改善したいところ	取組アイデア
近所づきあい	・盆踊り ・舟入の行事（祭り、盆踊り、区体） ・コミュニティの活動。 ・地域がまとまっている ・地域の和 ・話しやすい近所となり ・住民同士の連絡	・近所づきあいが薄れてきた	・中心になる人がいるか？ ・地域がわかりにくい
道路		・道がせまい（3） ・東西の道を広く ・歩道がほしい ・道路がせまく、救急車両が入れない ・幹線道路がない ・用途の見直し ・区画整理が必要	・災害、消防、救急車 ・狭隘道路の解消 ・中心になる道路整備
人口減少	・古い建物（住宅）が残っている ・比較的駅に近い ・交通の便が良い ・静か ・安全 ・蟹江はポテンシャルあり	・子どもが遊べる場所 ・安全に走れる道路がほしい。 ・子どもと同居していないので、子どもの声を聞かない ・次世代が住みたいと思う地域にしたい ・未婚が多い ・コミュニティの崩壊	・残したい建物３軒 ・残す建物 建て替える 土地 ・コンパクトシティ、便利な場所 ・人口が減る→コミュニティが継続しない ・負のスパイラル→どこからやるか？
空き家		・空き家解消・対策 ・壊れそうな家、撤去 ・住宅環境悪化	
買い物		・食料品、日用品など、買い物に困る ・若い人が流出する	・買いもの ・スーパーがほしい
病院		・医療施設が少ない	
教育	・児童数が少ない（83 人） ・子どもたくさん 舟入小学生 200 名にする！ ・舟入小学校の存続	・小学校の児童数を増やしたい。全校 100 人以上は希望 ・児童数の増加	
防災		・決壊の心配のない堤防にしてほしい ・災害対策	・災害と共生するまち
	・きれいな水辺 蟹江川	・学校 ・老人世帯が多すぎる ・少子高齢化の改善	・福祉よりインフラ ・みんなで将来像を共有する ・町―地域←専門家入れて議論 ・地域の盛り上がり→どこからやるか？どこからやるべきか。町と一緒に考える ・10 年たっても変わらない、変わっていない

須西小学校区

	良いところ	改善したいところ	取組アイデア
自然・名所	・季節感が分かるﾛｹｰｼｮﾝ。田、花、桜並木 ・桜の名所。観光化したい。提灯、サーチライト		
景観	・町内を二分する佐屋川があり、景色が良い ・町内が整備されて美しい		
地域の行事	・須成の伝統 ・町内行事をやっている。夏祭り、バス旅行 ・行事の参加数が多く協力的 ・のどかな雰囲気。在来の家族状況がわかってる		・子どもの達成感感じる取組 ・老人ホームと保育園、一緒につくる ・施設で流しそうめん。イベントで小学生と高齢者が交流
交通・道路	・道路環境が良い。 ・交通の便が良い ・買い物便利、交通の便が良い ・名古屋駅に近い	・東郊線の踏切混雑（狭い） ・道路が狭い。渋滞がひどい ・道路（今・須成線）の開通 ・朝晩の交通渋滞	・ＪＲ蟹江駅北側、信号が必要 ・自転車で町内を巡れる道路づくり
駅・お散歩バス・免許返納	・ＪＲ蟹江駅が便利になる ・ＪＲ蟹江駅北側。駅周辺の開発、整備 ・便利（道路、鉄道）	・ＪＲの本数が少ない ・ＪＲ駅前の信号。町内南北線の信号が必要 ・車がないとちょっと ・コミュニティバス等の整備。ルートがない	・駅の送迎で混雑。マナーも向上させる ・免許返納、交通の便が悪い→おさんぽバスを改善 ・介護の送迎バス、日中に利用・活用
居住環境	・小学校多い ・スーパーが多い ・店（飲食店）多い	・空き家が多くなった ・大きな病院がない ・スポーツ施設等がない	・ドローンで配達してもらう。高齢化で動けないから ・みんなで歩きやすいコースをつくる
安心・安全	・閑静なところ	・道路が暗い ・水害怖い（ゼロメートル） ・町内放送の聞きづらいところがある	
地域に参加しない人	・現役世代による桜グループが提灯の取り付け、撤去を休日に行うようにした	・若い住民は地域に興味がない ・若い人が少ない。10 年後心配 ・高齢化。役員のなり手が少ない	・若い人に地域に興味を持ってもらう ・休日を利用した若手ボランティア活動の推進。 ・次の町内会の役員になってもらう
コミュニケーション	・住民がフレンドリー ・アットホーム。顔が見える	・新しい家族の顔が見えない	・サロンの充実。ネットワークづくりを ・サロンに行こうと誘う、声かけする ・サロンに行く足。送迎する ・シニアカーの貸し出し

学戸小学校区

	良いところ	改善したいところ	取組アイデア
生活利便	・公共施設が近くにある（役場、学校など） ・買い物が便利 ・食べ物店多い ・利便性が良い（交通、買い物） ・ライフワーク良い。道路、電車等		
健康	・有名な温泉がある	・病院（総合病院）がない	
住みやすさ	・静かで住みやすい ・住宅地が静か！	・まちに夜しか行かない	
コミュニティ	・協調性が高く住みやすい ・老人会がさかん ・祭りがたくさんある→存続は大変 ・区での祭りがある→区での活動がさかん！	・人とのつながり薄く ・町内会の加入率 ・転入された若い人たちとのコミュニケーションがうまくいかない ・新規の転入者とのコミュニケーションが薄い！ ・役員のなり手がいない	・地域の機能 ・一人ひとりの幸せ ・長寿健康 ・時代の変化 ・長寿会の方の子どもの放課後の見守り
交通	・交通の便が良い ・交通インフラが整っている		
公園	・公園が各地に有り ・広い！交通が学べる→交通公園		
道路	・高速道路が近い ・道が広い	・道路が混雑→抜け道を通る車が多く危険 ・道路の利便性。川の西は良い。東は悪い→密集しているからもうムリかも	
防犯		・街灯が少ない ・少し暗いところが多い ・防犯が心配	
子育て環境	・子育て環境が整っている ・子ども会で子どもの交流がある		
災害への不安	・災害に強くなった ・排水施設完備	・水害（川が多く） ・高い避難場所がない ・田んぼが無くなって、水を貯めるところが無くなった ・堤防が壊れたら、逃げる場所がない	
ゴミ・水質		・川が汚い ・川がゴミの山 ・ゴミの不法投棄 ・ゴミの分別ができていない ・生ゴミ等のマナーが悪い。	・多言語ゴミ表示
多文化共生			・マナー ・企業の外国人への研修

かにえミライ会議　文通バージョン「10 年後の蟹江町を考えよう！」

かにえミライ会議は、「10 年後の蟹江町を考えよう！」をテーマに、町民のみなさんから意見を聞く機会として全２回開催する予定でした。

参加者は、無作為に選ばれた 15 歳以上の町民の方 1,000 人を対象にお声掛けをして募集しました。

当初、３月に２回開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、５月に延期、その後参加者の皆さんが集まっての開催は中止とさせていただきました。

しかし、未来の蟹江町への意見を言いたいと『かにえミライ会議』への参加を応募してくださった方々の思いを受け止めるべく、『かにえミライ会議　文通バージョン』として、２回に分けて基本構想案へのご意見をいただきました。

参加者募集期間：令和２年１月９日（木）～１月 27 日（月）
募　集　方　法：蟹江町の在住 15 歳以上の 1,000 人を対象に招待状を発送して募集
「まちから」広報かにえで、町内に在住・在勤の高校生以上の方を対象に募集

【かにえミライ会議　参加者募集チラシ】

開催のご案内

かにえミライ会議
参加者大募集！

「蟹江町でこんなことがしたい」、「蟹江町をこんなまちにしたい」など、今感じている地域への思いや蟹江町のミライの姿を町民同士で集い、一緒に語り合ってみませんか？

◆開催日時　第１回：３月５日（木）　19 時～21 時
第２回：３月19日（木）　19 時～21 時
※両日とも参加できる方

◆開催場所　中央公民館

◆申込方法　下記に必要事項を記入し、切り取ったものを同封の封筒で返送してください。（切手は不要です）
締め切り：１月 27 日（月）

【お問合せ先】蟹江町政策推進課　（担当：星島）
TEL 0567-95-1111(内線 232)
seisaku@town.kanie.lg.jp
詳しくはこちらより

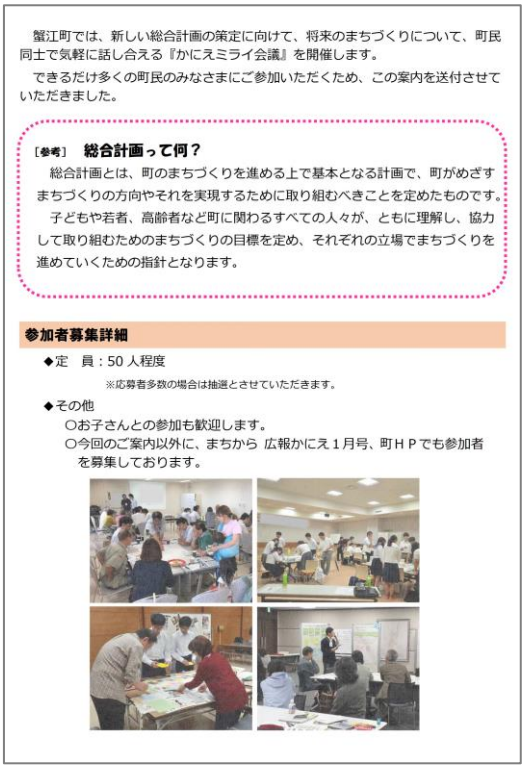
POMPOMPURIN ©1996,2019 SANRIO CO.,LTD. APPROVAL NO.G603593

切り取り線

参加申込書

お名前	フリガナ		
性　別	１．男性　　２．女性	年　齢	歳
住　所	〒		
連絡先	（　　）　　－	e-mail	

締め切り：１月 27 日（月）



蟹江町では、新しい総合計画の策定に向けて、将来のまちづくりについて、町民同士で気軽に話し合える『かにえミライ会議』を開催します。

できるだけ多くの町民のみなさまにご参加いただくため、この案内を送付させていただきました。

［参考］　**総合計画って何？**

総合計画とは、町のまちづくりを進める上で基本となる計画で、町がめざすまちづくりの方向やそれを実現するために取り組むべきことを定めたものです。

子どもや若者、高齢者など町に関わるすべての人々が、ともに理解し、協力して取り組むためのまちづくりの目標を定め、それぞれの立場でまちづくりを進めていくための指針となります。

参加者募集詳細

◆定　員：50 人程度
※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

◆その他
○お子さんとの参加も歓迎します。
○今回のご案内以外に、まちから 広報かにえ１月号、町ＨＰでも参加者を募集しております。

かにえミライ会議　文通バージョン　第１回

意見募集期間：令和２年４月 30 日（木）～５月 15 日（金）
意 見 件 数：10 件

【第１回かにえミライ会議　意見募集シート】
テーマ：10 年後の蟹江町が『こんなまちになったらいい』『こんなまちにしたい』という将来の姿を表すキーワードについてアイデアを募集しました。

かにえミライ会議〈文通バージョン①〉

蟹江町では、新しい総合計画の策定に向けて、将来のまちづくりについて話し合う『かにえミライ会議』の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、集まっていただくことを断念し、「文通バージョン」として、できるだけ皆さんのご意見を聞かせていただくこととしました。

皆さんにお願いすること
かにえミライ会議文通バージョンでは、２回にわたって皆さんからご意見をお伺いする予定です。
第１回目の今回は、10年後の蟹江町が『こんなまちになったらいい』『こんなまちにしたい』という将来の姿を表すキーワードについてアイデアをいただきます。
第２回目は、皆さんからいただいたキーワードをもとに「将来像」の案をお示ししますので、それについてご意見をいただく予定です。（５月下旬発送予定）
ぜひご協力ください。

第１回（今回）
皆さんに、将来の姿を表すキーワードについてアイデアを出していただきます。

→

町
皆さんからの意見をもとに、新しい総合計画の将来像（案）を作成します。

→

第２回（５月下旬）
町が作成した案に皆さんから意見をいただきます。

総合計画って何？
総合計画とは、町のまちづくりを進める上で基本となる計画で、町がめざすまちづくりの方向性やそれを実現するために取り組むべきことを定めたものです。
子どもや若者、高齢者など町に関わるすべての人々が、ともに理解し、協力して取り組むためのまちづくりの目標を定め、それぞれの立場でまちづくりを進めていくための指針となります。

【お問合せ先】蟹江町役場政策推進室政策推進課　（担当：丹羽、大野）
TEL 0567-95-1111(内線 112)
seisaku@town.kanie.lg.jp

ご意見は、同封の返信用封筒に入れて、ご返送ください。切手は不要です。
また、メールでの回答をご希望の方は、上記アドレスまで「かにえミライ会議」と題をつけて、別紙「ご意見募集」の内容を記載して送信してください。

ご意見

の蟹江町が『こんなまちになったらいい』『こんなまちにしたい』という将来の
キーワードを５つあげてください。そのキーワードを選んだ思いもお聞かせくだ

ーワード	キーワードを選んだ思い

参考資料として、昨年度に町民の皆さん、町内の中学生の皆さんからアンケート調査を通じていただいているご意見の抜粋を同封します。

【第１回かにえミライ会議　意見まとめ抜粋】

分野	テーマ	キーワード
1	健康	元気な中高年と子供が共存する社会
1	健康	活気のある街
1	子ども	未来の担い手
1	子ども	子育てしやすい豊かな町
1	福祉	高齢化社会
1・3	環境/貧困	食品ロスと子ども食堂などの推進
2	教育・文化	教育・文化
2	文化	文化通りを作りたい
2	文化	文化と人づくり
2	文化	全町民参加の祭りの復活
2・4	若者	日光川ウォーターパークのイベント
3	安全安心	住みよい安全な町かにえ
3	安全安心	安心・安全
3	安全安心	安心安全なまちづくり
3	安全安心	交通事故が少ない安全な町
3	安全安心	住みよい街づくり
3・4	道路/安全安心/緑化	暮らしやすい街
3・5	安全安心/地域	住み続けたくなる街
3	環境	水
3	環境	清掃・環境
1・3	環境/貧困	食品ロスと子ども食堂などの推進
3・4	環境/PR	特色のある街
4	PR	まちのシンボル
4	PR	イベント
4	PR	魅力ある祭を持っている町
4	PR	「水郷かにえ」をやめましょう
4	PR	特色のある町
3・4	環境/PR	特色のある街
4	交通	駅前（近鉄蟹江）あたりの交通の便の解消
4	交通	他地域に容易にアクセスできる町
3・4	道路/安全安心/緑化	暮らしやすい街
4	産業	産業の活性化
4	都市計画	地域バランス
4	都市計画	本町・城あたりの区画の整理
4	都市計画	富吉駅周辺の発展
4	都市計画	町内でアクセスしやすく賑やかな町
2・4	若者	日光川ウォーターパークのイベント
5	行政	役所改革
5	行政	投票率アップ
5	交流/行政	人・交流
5	情報化	誰もが参加できる、見える化オンライン
5	情報化	AI に強い人材の育成
5	人権	人権宣言の町
5	地域	繋がりのある街
5	地域	住民自治の確立
5	地域	地域社会で人づくり
5	地域	一体化
3・5	安全安心/交流	住み続けたくなる街

かにえミライ会議　文通バージョン　第２回

意見募集期間：令和２年７月 15 日（水）～７月 31 日（金）
意 見 件 数：10 件

第１回でいただいた意見をもとに、役場内の若手職員とともに議論し、庁内の会議を経て、10 年後の蟹江町の将来像『だけじゃない　らしさあふれる　粋（いき）な蟹江（まち）』を決定したこと、そのうえで、将来像の実現に向けて、５つの基本目標を設定し、施策・事業に取り組んでいくことを報告しました。

テーマ：各基本目標案について、ご意見や提案、基本目標を実現していくための施策や事業のアイデアを募集しました。

【第２回かにえミライ会議　意見募集シート】

10 年後の蟹江町の将来像

皆さんからお寄せいただいたご意見をもとに、役場内の若手職員とともに議論し、庁内の会議を経て『10 年後の蟹江町の将来像』を決定しました。ご協力誠にありがとうございました。

これからの 10 年間、この将来像を目指し、様々なまちづくりに取り組んでいきます。

将来像	**だけじゃない　らしさあふれる　粋（いき）な蟹江（まち）**
将来像に込めた思い	蟹江町には、長い歴史があります。2019年（令和元年）には町制施行130周年を迎え、全国で最も古い町の一つとして、これまでの発展を振り返りました。また、町の発展を支えてきた先人の英知と情熱に、思いを深める機会にもなりました。さらに歴史を振り返れば、「カニエ」という地名の起源は、1215年（建保３年）まで遡ることができます。その間、戦禍や災害にも見舞われながら、約400年前には「須成祭」が行われるようになり、今では、ユネスコ無形文化遺産にまで登録されました。 この長い歴史の中で、当町は「水郷のまち」として川とともに発展し、市街地整備が進むにつれて都市化してきました。今では、大都市名古屋に隣接する、交通至便で住みやすいまちとなっています。 しかし、蟹江町の魅力は、歴史、文化、水郷、利便の良さだけではありません。歴史に培われた自然と人の営み、人と人との温かいつながりとともに、あらゆる観点から暮らしやすい粋な魅力を備えています。「粋」とは、江戸時代に生まれたことばで、「人情の表裏に通じている」という意味があります。また、究極の粋は、「みんなのために生きる（行動する）」ことです。 機械化や情報化など科学技術の進歩に伴い、人と人との関係が希薄になっている今日だからこそ、本計画の推進により、当町の魅力を高めながら個性を伸ばし、人や社会を思いやる「粋な蟹江（まち）」づくりに取り組みます。

ご意見募集（意見書）

将来像の実現に向けて、５つの基本目標を設定し、施策・事業に取り組んでいきます。
各基本目標案について、ご意見や提案、基本目標を実現していくための施策や事業のアイデアをお聞かせください。

氏　名	

■ 基本目標１　【子育て・福祉・健康】

「ふれあい、支えあい」ホッとやすらぐまちづくり

基本目標に向けた取組内容等	● 安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めます。 ● 誰もが地域で安心して暮らし続けられるよう、福祉サービスを充実していきます。

基本目標案へのご意見・提案、実現のための施策アイデアなど

■ 基本目標２　【教育・文化】

「歴史・文化・愛着」誇りを育むまちづくり

基本目標に向けた取組内容等	● 生涯を通して学び続けられる"人づくり"の仕組みづくりを進めます。 ● 文化財の保存継承に努め、歴史文化資源の有効活用を図ります。 ● 生涯スポーツによる体力づくり・健康づくりの取組を促進します。

基本目標案へのご意見・提案、実現のための施策アイデアなど

■ 基本目標３　【環境・安全】

「住み続けられる」安心・安全なまちづくり

基本目標に向けた取組内容等	● 地域生活における環境の向上を図ります。 ● 地域できめ細かい防災活動を推進し、地域防災力の向上を図ります。 ● 消防・救急機能の強化、防犯、交通安全活動を推進します。

基本目標案へのご意見・提案、実現のための施策アイデアなど

■ 基本目標４　【都市基盤・産業】

「ちょうどいい」快適・便利なまちづくり

基本目標に向けた取組内容等	● 便利で快適な暮らしのために、日常生活に必要な施設や都市機能の集積を図るなど、適切な土地利用を推進します。 ● うるおいと安らぎのある景観の形成を図ります。 ● "かにえブランド"の確立を支援します。 ● 観光産業の振興及びシティプロモーション活動を推進します。

基本目標案へのご意見・提案、実現のための施策アイデアなど

■ 基本目標５　【行財政・共生】

「みんなで取り組む」元気なまちづくり

基本目標に向けた取組内容等	● 地域の課題や特性に応じた自治活動の展開を促します。 ● 誰もが活躍できる社会の形成を目指した取組を進めます。 ● より質の高い行政サービスを展開します。

基本目標案へのご意見・提案、実現のための施策アイデアなど

【第２回かにえミライ会議　意見まとめ抜粋】

基本目標１　「ふれあい、ささえあい」ホッとやすらぐまちづくり　【子育て・福祉・健康】

【全般】	○子育て、福祉、健康のハード面は充分に充実している。ソフト面も活用されている。 ○問題は蟹江町民がどれだけ利用しているかである。事業の利用者数または利用率の公表をすれば町民の関心も深まる。 ○情報の共有と地域の絆を深め、共に支え合う協働のまちづくりを推進する。 ○泉人の活用アイデアを公募したら子育てと福祉がつながるのではないか。活かし方の工夫で発展できる気がする。
【子育て】	○次代を担う子育て支援。 ○蟹江町独自の育児に関して相談できる窓口の設置。 ○子どもを育てる親向けの教室があるとよい。 ○若い人も子ども連れの主婦も気軽に出入りできるサロンの充実。 ○子どもをターゲットにしたイベントやまちのＰＲのための動画コンテンツの制作・配信。 ○子連れでも安心して出かけられるようなまちづくり。安全に配慮した子どもの遊び場の増設、子連れでもゆっくり食事を楽しめるような飲食店の増設。昔からある公園の古い遊具のメンテナンスや新たな遊具の設置など。 ○高校、大学を誘致してほしい。
【福祉】	○行政だけでできない福祉サービスに企業に参加してもらう（例えば、スタバの聾唖の方たちが運営するカフェが蟹江にあれば、そちらに行き、手話を体験したい）。 ○「町の縁側」「ふれあいサロン」を活用し、老化防止と認知症の防止に役立てる。 ○３世代の交流。 ○高齢化社会、認認介護、老老介護の時代到来、地域包括支援センター等の充実を図る。 ○地域サロンの充実。
【健康】	○図書館前広場で、朝８時より蟹江町民ラジオ体操を開催してほしい。

基本目標２　「歴史・文化・愛着」誇りを育むまちづくり　【教育・文化】

【教育】	○地域の人が学校にもっと入り込んで、子どもも、先生も、住民も育ち合う学校環境になると良い。 ○高校や大学を誘致し、人材育成を図る。 ○大学や高校などの教育機関の設立や誘致。 ○地域の宝を磨き、育み、保存継承するなど魅力ある蟹江をテーマに、実践体験や俳句などを、小学生、中学生、一般から募集し、褒めて育てる人づくり、まちづくりを推進。 ○町独自のオンラインスクールを立ち上げ、どんな世代でも関心のある分野について受講できるようなサービスを提供する。 ○歴史・文化・地域の風習等生涯学習まちづくりを推進する。 ○生涯スポーツの活動として、地域型総合スポーツクラブとスポーツ推進委員との連携でイベント的な機会をつくることができると良い。 ○日光川ウォーターパークに舞台をつくり、若者バンドやおやじバンド、中学吹奏楽など、「みんなで音楽祭」を開催しても面白い。
【文化】	○文化は人の心を癒し、生きる喜びと心の豊かさを実現させる。 ○文化は作るもの。蟹江町からも新しい文化を発信しよう。 ○須成祭は蟹江町のシンボル。 ○ユネスコ無形文化財に登録された須成祭のＰＲ。 ○小中学校の授業や成人式で須成祭の内容に触れることによってＰＲ。 ○男女の交際のきっかけにとお尻をつねる「つねりまつり」が動。巻き藁舟が静で津島まつりにない祭も今はセクハラでできません。 ○外国人に受ける祭は動きと外国人観光客の受け入れ。 ○神楽揃と独特なリズムの神楽太鼓は国際化に充分受けると思う。 ○祭人で交代で神楽も展示をしてほしい。 ○小学生から祭に必要な笛、太鼓を習わせ、大人の祭に子ども主体の祭になるようにする。 ○駅（近鉄、ＪＲ）付近に文化発信のアンテナショップをつくる。

	○スポーツ施設の充実と施設の予約を知りやすくするシステムの導入。 ○体力づくり、健康づくりのために、ボッチャのようなだれでも、どんな世代でも気軽に楽しめるような生涯スポーツの体験会や大会の企画・開催。 ○佐屋川創郷公園ラジオ体操の会を立ち上げ、活動している。

基本目標３　「住み続けられる」安全・安心なまちづくり　【環境・安全】

【全般】	○まちづくりの鍵は、安心・安全で住みよい町である。 ○よりよいまちづくりを目指す上で「安心・安全」は何よりも優先して取り組むべきテーマ。そこへの投資は惜しむべきではない。 ○川や道・地域の清掃など、自主ボランティアの組織づくりを推進する。 ○治安が良く・環境にやさしい　まちづくり。 ○助け合い（互助）力のあるまちづくり＝蟹江町といえばボランティア活動の盛んな町づくり。 ○町民に分かりやすくＰＲできると良い。
【環境】	○老朽化した火葬場の改築は最重要課題として早期に取り組みを完成していただきたい。町民の悲願である。 ○川の清掃活動を行う機会の増加（町内会で義務づけるとか）。 ○河川環境整備などの事業も増やしながら、浚渫などをしてハード的に整備。 ○歩いて蟹江の自然に触れる。 ○自転車で町を巡るなどして、町の魅力に気付き、発見する。
【安全】	○一人ひとりの命の尊さと安全について「いのちと安全の日」を制定し、「安全・安心なまちづくり推進大会」を開催し、住民が考える安心・安全なまちづくり、防犯意識の高揚と地域防犯力の向上を図る。 ○災害発生時の避難場所の増設や災害に備える一人ひとりの意識を高めるための啓蒙活動の実施。 ○防災は自治体まかせではなく、全町民一人ひとりが参加するまちづくりが必要。 ○蟹江町は水害に弱い町としてのイメージが強い。 ○舟を各町内に防災用品として必ず準備をしてほしい。 ○消防署真南の大通り（南北）を掘削し、平時は遊歩道とし、災害時は調整池の役割をすれば浸水被害も少なくなる。 ○消防団活動をする人がふえることによって、地域の防災力が向上する。 ○防犯カメラの設置を検討してほしい。 ○防犯灯・防犯カメラの設置（交通事故多発地点・犯罪・迷惑事件の発生場所、用水路・排水路等暗くて、危険な場所）。 ○街灯の増設。 ○警備会社と契約して夜のパトロール強化。

基本目標４　「ちょうどいい」快適・便利なまちづくり　【都市基盤・産業】

【都市基盤】	○本町地域、富吉駅周辺の区画整理。 ○適切な土地利用の推進を期待する。 ○近鉄蟹江駅付近は連続立体交差事業をやった方が良かった。 ○巡回バスの乗車率が低い。ニーズはあるはずなので、制度に問題がないか検討してほしい（豊明市のバスの取組も参考にしてほしい）。 ○便利で快適な暮らしのために、町内での交通の便をよくしたらよい。 ○名古屋市バスの乗り入れ。 ○水郷の街　蟹江町　全面積 11.09 ㎢の 1/5 は水面。 ○用水路・排水路を流れのある水路にする。 ○10 年後には子魚・蟹の泳ぐ水路にする。 ○住民による美化清掃・ゴミの除去。 ○日光川・蟹江川・福田川の舟下り。 ○水辺には小公園を作り　住民憩い場所・若者の音楽演奏する空間。

	○佐屋川では　ボート遊園地（親子で水に親しむ）。
【産業】	○蟹江町の面積は少なく、工業誘致は困難と思う。 ○税収入が望めそうな企業の誘致。 ○基幹産業となる企業の誘致。 ○旧社会福祉協議会の跡地に仮称ベンチャー村を作り、ベンチャー企業の育成応援。 ○地域資源を活かした創業塾セミナーや事業後継問題など人材育成を推進。 ○かにえブランドの確立は重要。町外からの注目度、認知度も高まるし、町民にとっても自分たちのまちに自信や誇りを持てるきっかけになる。 ○地元の企業で協賛してくれる企業を募り、それらのコラボによってブランド創出を目指す。 ○近鉄蟹江駅前商店街に店舗が少ない。駅前の活性化をしてほしい。 ○蟹江オンリーなお店の誘致。 ○空き店舗や空家を活用した創業、事業後継者の問題、特産品の開発など町民からアイデアを募集し、商工業者との協働で開発や啓蒙を推進する。 ○蟹江の地の利を生かした町づくりで、地域の購買力を高め、顧客の流出を防ぎ、町の活性化につなげる。 ○蟹江に来てもらうための娯楽施設（かにえブランド）、飲食街の構築が必要。 ○新たな観光コンテンツ創出のために、例えば蟹江町を会場、テーマにした謎解きイベントを企画・開催する。 ○商工会との連携、各団体がつながることができる機会の提供を希望する。それにより実施につながるプロジェクトもあるのではないか。

基本目標５　「みんなで取り組む」元気なまちづくり　【行財政・共生】

【全般】	○人は歴史を学び、争いのない国づくりと、幸せを求め続けなければならない。 ○コロナ禍で日本が IT 化において韓国、台湾などと一時代遅れていることがわかった。 ○コロナの終息後は新しい生活様式に変わると云われている。 ○かに丸君、ちょき丸をもっとメディアに出していく（蟹江町のアピール）。 ○地域の中にある学校を目指し、学校と地域との協働で、郷土愛のある人材育成を推進する。 ○名古屋のベッドタウン化している蟹江において、長いスパンでやれるのか。
【行財政】	○長期的スパンでの町のシステムの電子化（ICT）。 ○市町村合併とかは無理してやる必要はない。 ○若者から高齢者まで、町財政や議会報告などに関心を持つ住民への啓もうを図る。 ○自助、公助、共助が連携する。 ○より質の高い行政サービスの展開。 ○お散歩バスの有料化（限られた財政の中で受益者負担の考え方導入が必要）。
【共生】	○新しく変化する蟹江町の行程表と道筋を、誰でもわかるような説明をお願いしたい。 ○行政職員が担当職務の概要・制度等を住民にわかりやすく広報伝達する。各課別に町内公共施設・町内会集会所等にて開催する。 ○お互いに顔の見え、意見交換の容易な出前講座の開催。 ○行政や地域の課題、協働のまちづくり、住みたい町づくりへのアイデアを毎年募集し、実践活動を推進。 ○自治活動に取り組める年齢層が気になる。 ○町内会の行事等に若い人・世代の参加は低い。 ○祭等で様々な世代が参加して賑わっているところもある。そういった行事を増やしていけば顔の見える関係になり、地域の課題や特性に取り組む自治活動に発展していく。 ○今後も活躍し続ける人材の育成が必要。 ○スキルやノウハウを町民同士で教え、学び合えるような場があれば交流にもつながる。 ○高齢者と若者が教え、教わり合うような地域交流サロンのような場があるとよい。 ○誰もが活躍できる社会の形成をめざした取組については、より具体的な案が必要である。